

校 園 長 室 か ら



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和7年6月26日 第60号

夏が来れば思い出す

雨の多い1週間でした。梅雨だから当然なのですが、運動場で遊べないうっぴんが校長室まで届いてきていて、本当に気の毒に思います。

暑さも進んできていて、正門付近の紫陽花も最高潮の輝きから少し後退。来週からは、いよいよプールの授業開始。

夏が始まります。

今年は、どこで蟬の初鳴きを聞くのか。

さて、夏が始まる季節、教員採用試験がスタートします。先生になるための試験。もう随分昔ですが、私も受験しました。大学4年生の時に、中学校社会科の先生を目指して試験に挑みました。1次試験は見事に合格。300人中12人に残りました。嬉しくて嬉しくて、毎晩祝勝会。2次試験は、その成果でしょうか、惨敗。次の年、高校の世界史の先生になろうと再チャレンジも1次敗退。

世はバブルの全盛期。公務員になるなんてナンセンスもいいところと就職課のおばちゃんに苦言を度々いただきました。

同じように採用試験浪人していた友人と、当時倍率の低かった北海道を受験。最終面接まで残ったものの最終質問で「離島でも赴任していただけますか」と聞かれたので、大阪ノリで「たとえ流氷の上でも」と答えて撃沈。

その友人は、合格。以来彼は北海道民に。

あのとき、試験に合格していたら今頃北海道のどこで何をしていたのか。

この時期の北海道は、梅雨がなくさわやか満載。

コロナ禍で北海道民になった友人とも年賀状のやり取りも途絶えてしまつて。夏が始まるころ二人で降り立った千歳空港の風を思い出します。